

# 産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

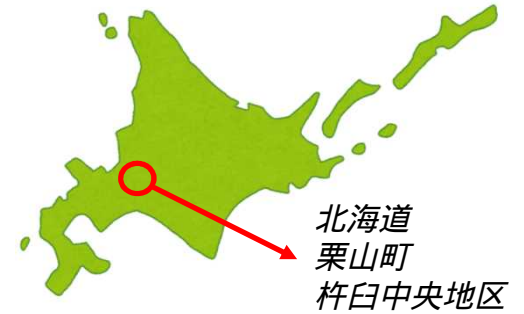
## 取組の概要

取組の概要 : 若手農業者によるモデル的野菜栽培  
計画作成主体 : 栗山町農業再生協議会  
対象品目 : 施設野菜 (産地面積: 2.52ha)  
主な取組主体 : 杵臼中央野菜組合  
成果目標 : 契約栽培の割合の10%以上の増加  
かつ50%以上  
助成金の活用 : 生産支援事業 (ハウス資材等)  
状況

## ポイント

ビニールハウスの増棟による作付面積の拡大、新たな生産品目の導入及び周年栽培の実施により、量販店との安定的な契約取引を行い、契約栽培の割合の10%以上の増加かつ50%以上を実現。  
契約栽培の割合の10.2%以上の増加

## 地区の概要



## 産地の現状と目標

現状: H27年度

作付面積: 1.8ha (出荷数量: 57t)  
契約栽培の割合: 45.3%  
品目: トマト、水菜、花き

目標: H30年度

作付面積: 2.52ha (出荷数量: 161t)  
契約栽培の割合: 55.5%  
品目: フルーツトマト、水菜、チンゲン菜、結球レタス



## 推進体制

地域の関係者 (若手農業者、栗山町、そらち南農業協同組合、農業関係者等) が一体となり、事業を推進。

## 地域における独自の取組

主な取組

地域における農業者の所得向上、収益確保のため、新品種の開発・普及、6次産業化の推進、新規就農者への支援及び圃場整備等、町、農業振興公社、JA等の地域の関係者が一体となって取り組んでいる。

## 事業効果

ハウス資材や内部設備のリース導入により、作付面積の拡大と併せ生産品目を増加するとともに、周年栽培を実施。

このことにより、量販店との契約栽培の割合の増加につながり、施設園芸に取り組む若手農業者の収益性の向上と施設野菜の産地強化を実現。

## ~ 施設野菜の契約栽培率 ~

